



米国 – 株価急落でリスク回避の様相、日本株も下落 –

POINT 米国株が大幅下落

10月10日の米国株は、ハイテク株や工業株が大きく売られ、NYダウ30種平均の終値は25,598.74ドルと前日比で3.1%下落し、今年2月以来の大幅下落となりました。併せて米国長期金利が低下し、米ドルが売られ、終始リスク回避的な相場展開となりました。11日の日本株はその流れを受け、ハイテク株中心に大きく下落し、日経平均株価の11日の終値は22,590.86円と前日比3.9%の下落となりました。

POINT 複合的要因がきっかけ

今回の米国株下落のきっかけは、いくつかの要因が絡み合う複合的なものと思われます。年初から引きずってきた要因として、①史上最高値を更新し続ける米国株に対する過熱感、②米中貿易摩擦の長期化への懸念、③米国長期金利の上昇等がありますが、足許では新たに、④IMFによる世界経済成長率見通しの下方修正、⑤利上げを継続するFRBに対するトランプ大統領の批判的な発言等の要因が合わさり、これら複合的要因が、売るタイミングを窺っていた投資家の利益確定の売りに繋がったものと考えています。なお、IMFは米国の2019年経済成長率予想を2.7%から0.2%下方修正し2.5%としました。

今後の見通し 経済環境は良好を維持

今後の米国の株式、為替、債券の見通しについては、楽観的な見方をしています。IMFは米中貿易摩擦の影響から米国の2019年予想を下方修正しましたが、一方では、2019年も財政刺激策の効果等から依然として潜在成長率を上回るペースでの成長が見込まれるとしています。今後も安定的な経済成長と、正常な方向へ向かう金融政策等から、株価と米ドル、長期金利のいずれも緩やかな上昇を予想します。

日本株については、米国株下落に連れ安したとの見方から、米国株が調整局面を終えて戻り歩調になれば、日本株も上昇に転じると考えています。

– 米ドル/円の推移 –

(2017年12月29日～2018年10月11日*)



– 米国/日本株式の推移 –

(2017年12月29日～2018年10月11日*)



– 米国長期金利の推移 –

(2017年12月29日～2018年10月11日*)



出所：Bloomberg

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。